

【学校評価】（別紙「令和元年度学校自己評価」参照）

◇重点目標に対する自己評価

- 1 基本的な生活習慣の確立 B
 - ・時間厳守、挨拶励行、整理整頓の実践と規範意識の高揚を図る。
 - ・正しい携帯電話の使い方を指導する。
 - ・交通法規を遵守させ、交通マナーの徹底など規範意識の高揚を図る。
- 2 基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得 B
 - ・個性や能力に応じたわかりやすい授業を実践し、一人一人の学力を高める。
 - ・資格取得、コンテスト、競技大会への挑戦など生徒の実践力を高める機会を充実する。
- 3 ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進 A
 - ・工業の特色を生かした地域連携・交流の推進に努め、積極的に情報公開する。
 - ・福祉教育をとおした地域・国際貢献活動の推進に努める。
- 4 部活動の充実 A
 - ・自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる。
 - ・体力の向上と豊かな情操、さらによりよい人間関係を育成する。

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

- ・「基本的な生活習慣の確立」については、アンケート結果から前年度に続き高い出席率を維持しており大きな問題は見られないが、前年度に比べやや低下が見られるため教職員の日々の生徒指導、また生徒の基本的な生活習慣に対する意識の向上を目指して取り組めたらと考える。交通や携帯等のマナー、モラルを守ろうと心がけている生徒は、前年度より減少している、まだまだ意識の向上を図る必要があるように思われる。特に携帯電話の取り扱いについては、友人関係のトラブルをまねいたり、犯罪に巻き込まれたり、本人にはそのつもりがないのに自分が誰かを攻撃してしまうなどの加害者になる恐れがあるなど携帯電話に潜む危険性については確実に認識してきているようであるが、その対処方法については、認識の薄い生徒がまだいるようである。携帯電話の使い方だけではなく、消費者教育やカウンセリング等、生徒への対応をいろいろと考えていく必要がある。
- ・「基礎学力の確実な定着と専門的な知識・技術の習得」前年度と比較して大きな変化は少なく、大きな問題は見当たらない状況が続いていると考えられる。生徒の資格取得やコンテスト・競技大会への意欲的な取り組みは望ましいところである。普通教科や家庭学習への取り組みの向上を図り、より良い学習環境を生徒とともに築いていくことが望まれる。資格取得については前向きに取り組んでいる様子が見える。また、「工事担任者（A I 3種）」や「パソコン技術検定1級」など難易度の高い資格試験にも挑戦する生徒もおり、昨年に続き意欲的に取り組む姿勢が見受けられる。気になる点を挙げると、学年が上がるにつれ学習意欲が低下する傾向が見られる。現状維持で満足せずに改善できる内容がないか常に検討していく姿勢が求められる。
- ・「ものづくり技術を生かした地域・国際貢献の推進」について、アンケート結果では多少の増減はあるものの全体としては高評価を得られている。台風による浸水被害の影響は大きく、ボランティアや特別支援学校との交流会など、中止せざるをえないものも多かった。そのような状況で行うことができた活動は、生徒達にとって一つ一つが大変意義のあるものになっており、それがアンケート結果につながっていると思われる。また、今後もHPなどを活用し、多くの活動が行われていることをこれからも広めていく必要がある。
- ・「部活動の充実」について今年度の1年生の加入率は98.1%とかなり高い率になっているが、1クラス減の1学年4クラスになったため加入者数では24名減となっている。今後生徒数が減っていく中で、どのように部活動を存続していくのか、減らす必要があるのか、などの議論が必要である。8つの部活動で県大会3位以上の優秀な成績を収め、関東大会、全国大会に出場している。一方で、台風19号による水害で甚大な被害を受け、活動場所が使用できない部活動がほとんどであり、半年以上も栃工での活動ができなくなっている部活もある。授業・実習・部活動とあらゆる面で生徒の活動が充実するよう復旧を進めていくことが必要である。

【学校関係者評価】

◇評価結果

本校における学校運営全般に対する意見をいただき、本校の良い点や改善すべき点など客観的に自校を知ることができた。学校評議員からは主に下記のような意見があった。

- 1 栃木工業高校は、社会人としての心構えも学ぶことができる高校である。
- 2 地元の保護者からクラスが1クラス減になり、入りづらくなったのではとの声が多い。
- 3 保護者アンケートの回答率が高いのに驚く。
- 4 子どもと学校のことを話すと、学校の教育活動に満足しているし、人間関係も築いているというので、本校はしっかり教育活動を行っていると思う。
- 5 地域の復興活動にも高校生は協力してくれている。とても感謝している。

◇評価結果に基づく今後の改善方策等

<学校運営に生かされた事例>

- ・学習環境の整備として、テニスコートの水はけの改善や、敷地内のポプラの巨木の整枝、野球部の防球ネット設置にむけての取り組みなど、学校評議員会で出された意見が取り入れられつつある。

<今後取り組む改善方策>

- ・人権教育研究学校の指定を受け、今後はユニバーサルデザインを意識した授業を展開するなど工業高校としての特色を活かした人権教育を推進していきたい。
- ・今回の台風19号による水害を受け、栃工の復興復旧に向けて、授業時間と授業機会の確保、校舎や設備の改修・復旧、生徒のメンタル面への配慮などに取り組んだ。今後も一日も早く正常な生活が取り戻せるよう、県教育委員会などとも連携して対応していきたい。
- ・本校は、就職率が良く、本校が開発した SkyBerryJAM を活用した小中学校への出前授業など、地元への貢献活動も行っている。今後とも地元にも愛される学校であり続けるため学習指導、進路指導の充実を図り、タイ王国ボランティア交流研修や地域貢献活動なども精力的に継続していく。また、今後は進学にも力を入れ、就職にも進学にも強い学校を目指していきたい。